

東日本大震災関連NEWS NO21 2011/11/14

(NEWSは全国人権連本部ブログに掲載してあります)

復旧支援、宮古への奮戦記 岡山人権連議長 (中島純男)

11月2日から5日まで岩手県宮古市への震災復旧支援行動。参加した4人、藤澤末博、竹本桂子、三戸康生のみなさん、当方(中島純男)も含めてすべてNPO地域人権みんなの会の構成メンバーでした。ワンボックスカーに、県連事務所メンバーが米や野菜、衣料、暖房具等を詰め込んでくれています。

みなさん、思い切って宮古へ行って良かったという感想です。被害の実相をみること、そこで必死で復旧のために頑張っている人々と交流できたこと、みんなの気持ちが集まった持参した支援物資が大変喜ばれたこと、ボランティアで1か月も頑張る青年がたくましく思えたこと、何人ものボランティアの人々がうまくねっとワークされていること、などを実感したからです。来年、春にもう一度いけたら、と思っています。往復2800キロメートルの運転も、分担すればそれなりに楽しくなることも発見、今回の新たな成果でした。(全文は機関紙「地域と人権」12月15日号に掲載)



高台から田老地区を望む(中島)



支援金を渡す本多先生(仙台長町仮設)

仮設をふるさととよべるように 神戸人権交流協議会 (森元憲昭)

地域人権連神戸人権交流協議会とNPOまちづくり神戸(代表・本多昭一京都府立大学名誉教授)は合同で、宮城県内仮設自治会激励のために11月2、3、4日にわたり代表4名を自動車で派遣しました。(全文は「地域と人権」12月15日号に掲載)

今回支援の代表として参加された本多先生は、「いいタイミングで来れた。これから、自力再建、復興住宅への移転などで被災者は悩み苦しむ日々を送ることになります。これを支えるのが仮設自治会です。神戸で被災し、仮設自治会で活動されたり、仮設住宅で暮らされた方々の経験や思い出は必ず役に立ちます。これを私たちの責務としてこれからも支援を続けましょう」と話されていました。

神戸人権交流協議会とNPOまちづくり神戸は、東日本大震災の被災者が仮設から一人もいなくなるまで、見守りと支援(微力ですが)を続けていきます。

宮城県議選 県政与党、自公が過半数維持 民主2減

東日本大震災の影響で約7カ月延期された宮城県議選は13日、即日開票の結果、無投票当選の9人を含む新県議59人が決まった。

宮城県議選 党派別当選者数

	計	現	元	新	無投票	前回
民主	7(2)	7(2)	0	0	1(0)	9(2)
自民	28(1)	26(1)	2(0)	0	7(0)	30(1)
公明	4(0)	4(0)	0	0	0	4(0)
共産	4(2)	2(1)	0	2(1)	0	2(1)
社民	3(0)	2(0)	1(0)	0	0	2(0)
みんな	2(0)	0	0	2(0)	0	—
無所属	11(0)	6(0)	3(0)	2(0)	1(0)	14(0)
合計	59(5)	47(4)	6(0)	6(1)	9(0)	61(4)

〔注〕無投票当選者数を含む。かっこ内は女性